

2007年4月19日より28日までの間株式会社プロティオス代表取締役社長の松木と株式会社JBBステビア研究所の木村新太郎常務が、片道35時間の時間をかけてパラグアイを訪問しました。

今回の目的は、2005年11月にパラグアイのデュアルテ大統領が日本を訪問しJBBステビア研究所の佐藤直彦社長を訪ねた際に約束をした20数年に及ぶステビアの研究成果をJBBからパラグアイに無償提供する事と、それに加えて株式会社プロティオスの将来の原料調達に関する視察及びステビアの世界普及活動の一環でした。ステビアの研究資料の無償提供に対してパラグアイ政府の商工大臣からJBBステビア研究所の木村常務に対し感謝状が贈られました。

また、パラグアイ日本大使館の飯野大使を訪問したり、農牧大臣との農業試験場の視察、最終日に開催されたステビアセミナーにはドイツやアルゼンチンなど海外からの参加者も多く、充実した内容でした。

連日新聞やテレビの取材がありメディアにて連日放送されていました。

滞在中に、松木社長と、木村常務、佐藤直彦社長が、パラグアイステビア協会のジャン・カルロス・フィッセル会長から、名誉会員として表彰され認定証の授与もされました。

又、南米サッカー連盟の会長を21年間にわたって務めていて、NLステビアのオーナーでもありますニコラス・レオス氏の工場を視察し、別荘にてランチを招待されました。

レオス氏には南米サッカー連盟ビル内にも招待され、高円宮様が名誉会員として表彰をお受けになられた会議室にも案内されました。

パラグアイのステビア事情は日本よりはるかに進んでおり、ステビア甘味料がどこのスーパーにも堂々と列挙されておりました。

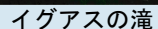
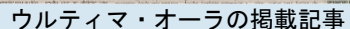
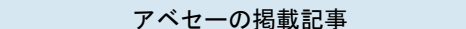
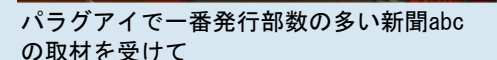
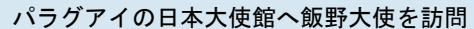
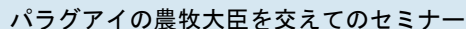
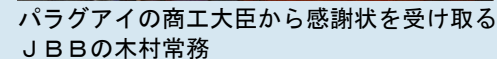
また、サプリメントと表記したステビア甘味料がアメリカ向けに大量に輸出されていることを知って驚きました。そのほか日系の新聞社を訪問したり、ステビアの農場や工場の視察などで2日間で1,300kmを走破するなど非常にハードな日程でしたが、実に充実したパラグアイ訪問でした。

ハードスケジュールの合間を見てブラジルとアルゼンチンの国境にある世界三大瀑布のひとつ「イグアスの滝」を観光したのが、一服の清涼剤となりました。

南米サッカー連盟の会長のニコラス・レオス氏と、パラグアイステビア協会のジャン・カルロス・フィッセル会長のお二人からは、プロティオスの会員に対してビデオレターによるメッセージをいただきました。

このコーナーの最後にお二方のビデオレターの内容を掲載しておりますが、今後世界規模でステビアを普及して行きたいという願いはステビアにかかわっている全ての人の願いです。

株式会社プロティオスの会員の皆様も、ステビアの普及が世界規模での環境と福祉に貢献できるということをあらためてご理解いただければ幸いです。





パラグアイステビア協会会長から名誉会員として認定証を頂きました



パラグアイで生産されているステビア商品の一部



南米サッカー連盟のニコラス・レオス会長のステビア工場を訪ねて



ニコラス・レオス会長の別荘にての昼食会



南米サッカー連盟本部ビルを訪ねて



高円宮様が名誉会員として表彰をお受けになられた会議室

ビデオレター

南米サッカー連盟会長ニコラス・レオス氏のコメント



ここに居られる私の大切な友人、そして、プロティオスで仕事に携わっていらっしゃる皆様及び、日本でステビアの事業でご活躍なさっております皆様に、本日このような貴重なつながりが持てた事や、又、お近付になれることをとてもうれしく思います。又、パラグアイで私共が行っておりますステビア事業を、あなた方に実際に目で見て確認していただくために、本日ここに皆さんをお迎えすることができたことをうれしく思っております。

プロティオスのビジネスでご活躍なさっている皆様と私共は、これからもお互いに協力し合って、パラグアイで生まれたステビアの本当の価値を理解し、ステビアの普及のために力を合わせて邁進して行きたいと思っております。

ステビアは非常に奥深い、無限の可能性を秘めた植物です。みんなで力をあわせて、パラグアイから世界に向けてステビア発展の為に頑張りましょう。

訪ねてくださった皆さん、そして日本にいらっしゃる皆様本当に有難う！



パラグアイ
ステビア協会会長
ジャンカルロス
フィッセル氏

パラグアイステビア協会会長
ジャン・カルロス・フィッセル氏のコメント

このたびパラグアイを訪問してくださった松木さん、佐藤さん、木村さんのご一行をお迎えできたことを、とてもうれしく思います。

パラグアイは、ステビアの原産国であるにもかかわらず、自国での研究があまり進んでおりませんでした。その間日本のJBBステビア研究所が20余年にわたって研究してくださった成果の資料を、長年の念願が叶い今回頂くことができたことは、パラグアイにとって非常に有意義なこととして大変うれしく思っております。

人々の生活にとって砂糖は非常に重要なものですが、時代は今バイオ燃料を必要とする方向へと向っており、砂糖の原料となるサトウキビや、とうもろこしなどが食料以外の用途へどんどん取られて行く傾向が進んでおります。したがって今後砂糖の不足する時代が来て、必然的に化学合成した甘味料が、世の中の需要を満たす時代が来ようとしております。

その危惧を改善することができるのがステビアなのです。

また、甘味以外のステビアが持つ可能性に対する様々な分野での研究がJBBによって進められてきましたが、今回その研究資料を私たちが引き継ぐことによってそれを発展させて行くことが必要となります。

パラグアイの政策として小農家の貧困対策が今問題となっておりますが、公的機関のみに頼るのではなく民間でも解決して行く努力をして行かなければなりません。ステビアにはその問題を解決して行く力があります。それが私たちパラグアイステビア協会の今後の勤めだと思っております。

JBBの佐藤直彦社長が長年培ってこられた研究が、今パラグアイに里帰りして来ました。今後はその研究結果をここパラグアイの地でも応用して行き、ステビアが持つ様々な可能性を世界に発信してゆくために、プロティオスの皆さんならびに、日本でステビア事業に携わっていらっしゃる皆さん、一緒に力を合わせて頑張りましょう。

パラグアイステビア協会は、JBBの佐藤直彦社長の功績に対して深く感謝の意を表するとともに、このたび名誉会員としての表彰をさせて頂く事となりました。その証明書を松木氏・佐藤氏・木村氏へ託しますので、日本へ帰りましたら佐藤直彦社長へお渡しいただきたいと思います。

それでは皆さん「ウン・アブラソ！」有難うございます。